



易 傳

特 別
A5
6673
128
早稲田大学図書館



安永七 戊戌天



祝晨

壽ふらふらめらる
此案の先か

水也 水也

朴齋

徳よきふ好り

四景祝

門板や白上やうらむ 朝日うけ

窓三

水やふつれく 年もく海

柳児

時めいこ 小舟の雛子 吹けり

葛屋

僕々玉に投あし 丁辰

二羽も 恩恩のたすきを

塔子

今朝ハ先教をくま 水くかきり 井

法眼

鳥文

尺戸ハセハ先娘一や 庭うらむと

文交

早うふら 眼も 年も 御うらむ

鹿児

謙少と 水かきり 初うらむ

小川改

玉洗

甲うらむや ころも 飛くも 蓬草山

葛屋

表方ふ 柳くめつり 表日 柳

乙葉

と平くしめく寤の
わくわくは

あつきある古はもあ——若の若 我斗

月志ふゆ日見ふゆ 神唐 子琴

と世ちのまきとさうく

志と心ハあももあつきの 神日 宿山

神某やあつてくしとあもあつち 栞他

川くやすしと静ふ明の若 文節

元日やいりさ田作くすもさうと 志六

大婦くは老のゆゆとをあやふと 如休

神某やあつてくしとあもあつち 如休

おの某くやあつてくしとあもあつち 有卜

若くはあつてくしとあもあつち 不性

掃面やあつてくしとあもあつち 和木

在京防民柙井

思慮の云をいふは神はハ
先ハさうもさうくして

年ばよのつら新あつて生れくす 京巴

経奇り

文支

若くはあつてくしとあもあつち

若くはあつてくしとあもあつち 朴斎

さあちんせうかふと交度らえつて 怒三

他人にやうを他人くハ係 宿山

傳骨此新く續く月の晴 系色

睡をありのかくるころりし 文節

淡くあつてくしとあもあつち 乙葉

文とあつてくしとあもあつち 志六

せうしんたる井のちみ酒こちき 雨琴
 ことちや能事も庭おふたり 梅仙
 吹しふはふねなるもよこしも也 鳥文
 せし即ちとやさうやちぬ童 う性
 二
 こんとくや中身の清くやうかき 秋斗
 木橋へ入り馬のちくく 尤屋
 ちちちちとちあやち乳の乳吹破 首危
 ちちちちとちとちぬまの被 如外
 津能の何ふつちとちお望 和氷
 ちちちちとちちちちちの根うき 有卜
 谷うけく月のぬき志川とち 柳児
 一のみより室のあまし 玉現

下畧

茶茶

宇居ハ世のこころとらふ
 あつ福と老の叫び
 麻を強くとくむるま

風も戸を推さく

はまの宵寐うら

勝人

